

「開発」で何が変わり、何が変わらなかったか

青森県・下北半島の小さな漁村、浜関根（むつ市）に生まれ育った愚安亭遊佐さんは、30年以上にわたり全国でひとり芝居を続けてきました。彼が芝居で伝えてきたことは、下北半島の歴史。地元住民や漁師たちの生き様でした。

『ここに海をもつ男』は、浜関根を南下し、斧の形の下北半島の付け根に位置する六ヶ所村が舞台です。六ヶ所村は、かつて漁業が盛んなところでした。雪の多い冬場は出稼ぎに行かねばなりません、皆、仲睦まじく、平和に暮らしていました。

村は時代の波にのまれ、もがきました。ただ、その中でもなお、海を愛し、誇りに思い、ここで生きる決意をする漁師がいました。『ここに海をもつ男』は、そんな海の男の物語です。

六ヶ所村で行われたことは、まるで一冊の教則本のようなのです。愚安亭遊佐さんは、「浜関根でおきた原子力船『むつ』の母港化問題でも同じようなことがあった。日本のどこにでも当てはまる。原発だけでなく空港建設、ダム建設、水俣病なども同じ、普遍的な問題」と言います。

脈々と続いてきた人々の暮らしに、大きな波が押し寄せる前とあと。その間に一体何が起きていたのでしょうか？ 私達は、その答えを探るために今回の公演を企画しました。きっと、「これから先どのような社会を築くか」という本質的な問題に向き合うには、「過去—現在—未来」という一連の流れを捉える必要があるのではないのでしょうか。私達は過去の歴史を背負いながら、未来に向かって、今現在を生活しているからです。

芝居は、記憶の継承媒体の1つです。歴史、自然環境、資源、慣習、産業、暮らし、人。愚安亭遊佐さんが肌で感じた下北半島の歴史を、芝居を通して今につなげます。

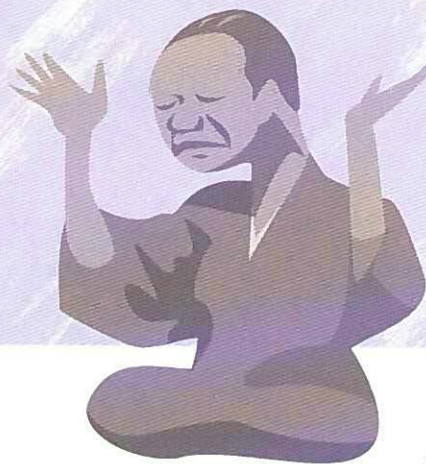
出演 愚安亭遊佐
作・演出 松橋勇蔵
演奏 田山ひろみ
構成 結純子
舞台監督・照明・音響 木本博
演出協力・美術 遠藤琢郎
(横浜ボートシアター)
照明プラン 山上悦男
企画・制作 遊佐企画
主催 下北半島プロジェクト
共催 マガジン9

愚安亭遊佐プロフィール

くあんてい・ゆうざ 1946年青森県むつ市浜関根生まれ。漁師の網元の8人兄弟の5男。「劇団三十人会」に所属したのち、77年「劇団ほかい人群」を結成。「人生一発勝負」「百年語り」ここに海をもつ男」の「下北三部作」で全国芝居行脚を続ける。1996年むつ市文化奨励賞受賞、1999年第54回文化庁芸術祭優秀賞受賞。著書に「人生途上・旅途上」「アテルイ」（ともに自然食通信社）がある。

そこに、「むつ小川原巨大開発」が振りかかったのは1960年代末。日本最大規模の石油コンビナートを誘致する計画に、地価は高騰し、人々は土地を売って、漁師たちは漁業権を手放しました。

しかし、誘致計画は頓挫し、開発に隠されていた別の構想が浮上しました。核燃料サイクル施設の建設です。



日時 2013年1月19日(土) 開場18:00 / 開演18:30 (終演20:30)

公演後アフタートーク開催 聞き手:山田勝仁(演劇ジャーナリスト)

場所 北とびあ ペガサスホール

東京都北区王子1-11-1 北とびあ15F 電話03-5390-1100(管理課)

料金 一般3500円 学生3000円(全席自由・定員150人)

託児あり(要予約 / 1人300円)1月8日(火)までにメールまたは電話で利用人数をお知らせ下さい。

ご予約・お問い合わせ

●WEB予約 マガジン9 <http://www.magazine9.jp/>

●電話予約 080-3005-6931

●窓口販売 北とびあ1階チケット売り場(10:00~19:00)

※WEB・電話でご予約の前売り券は、当日会場での引き渡し、または、事前発送(送料80円)いたします。ご予約時にお選びください。

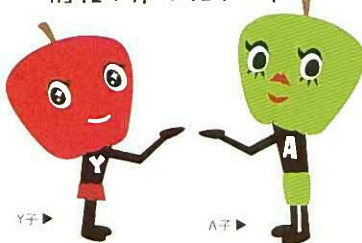
この公演は、オビニオンウェブマガジン「マガジン9」のプロジェクトの1つです。

下北出身のY子と弘前出身のA子が、多くの人たちの力を借りながら公演の成功を目指しています。

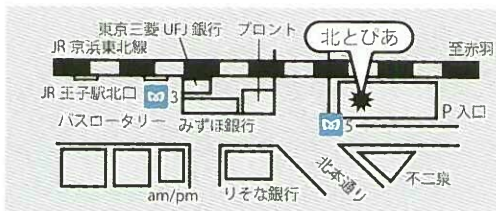
公演準備の様様をWEBで伝えています！

<http://magazine9.jp/shimokita>

前売り券発売中です



北とびあへのアクセス [埼京線]
東京メトロ南北線「王子」駅
5番出口直結
JR京浜東北線「王子」駅北口
徒歩2分
王子駅までの所要時間
池袋駅から約15分
東京駅から約20分
新宿駅から約25分



おねがい

- 学生の方は当日、学生証を拝見します。忘れずにお持ちください。
- 障がい者の方は、介助者1名無料。ご予約をお願いします。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。託児をご利用ください。